

5 チキリ巻き(ハタ巻き)

タテ糸を、機に取り付けるため、チキリ棒に巻いていく作業です。アヤ、アヤ竹、オサを移動させながら巻きます。チキリ棒の片側には、あとで歯車を取り付けるので、巻いていく時は棒の向きに注意する必要があります。

【使用する道具と材料】

チキリ棒(図15)

タテ糸を巻いていく棒。機に取り付けた時、織り手の右手側に歯車が付く。

木の棒

チキリ巻きの時にタテ糸を結び付けるもの。チキリ棒とこの棒は紐でつながり、タテ糸とともにチキリ棒に巻いていく。

サキアヤ

チキリ巻きをする時、アヤ竹の先に入れておき、アヤが進みやすいようにする竹の棒。

ハタクサ(機草)

幅2cm、厚さ3mm、長さ45cm程の薄い板。巻き始めの糸が平らな状態で巻けるよう調整するため、また、巻いて重なる糸が絡むのを防ぐために糸と一緒に巻き込む。アヤ返しの時にも使う。

タテ糸 1回目のオサ通しをした糸。オサ・アヤ竹付き。

クシ 大きめのものを2本使用。

長机 作業台として2台程度。

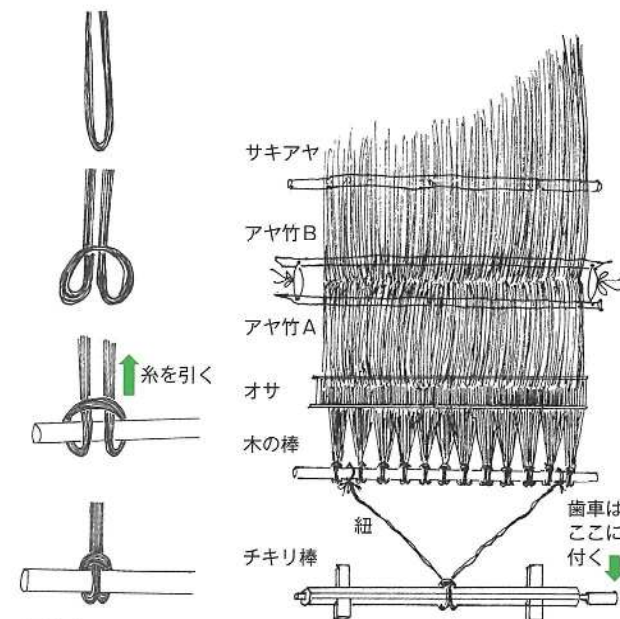


図14
タテ糸の結び方

図15 チキリ棒とタテ糸を結んだ図

親指とひとさし指を輪に入れて束をつかみながら指から糸を抜きつつ、ひとさし指を糸の2つの輪に入れる。ひとさし指のところに木の棒を通す



写真86 棒にタテ糸の輪の部分結び付ける



写真87 タテ糸とチキリ棒がつながる

(6) 最初に(1)でチキリ棒に巻いた紐を再度しっかりとゆるみなく巻き直します。この時、チキリ棒と木の棒は平行になるようにします。(写真87)

そのまま巻き手の手前側(矢印の方向)へと巻き、木の棒がチキリ棒のところまできたら、しっかり押さえてタテ糸と一緒に巻き込みます。木の棒や結び目でできた段差は、ハタクサを使って調整し、平らな状態で糸を巻くようにします。チキリ棒の左右に直角に出る平たい棒を立てたり寝かせたりしながら巻いていきます。(写真88)

(7) 巻く時は、オサより先側の糸をクシでとがして整え、左右均等に張りながら巻きます。

巻き手のほかに2人が左右に分かれて、糸を半分くらいに分け、それぞれが片手で糸を張りつつ、片手はクシで糸をほぐすよう優しくとがして整えます。

整えながら、アヤ竹とオサの位置を少しずつチキリ棒と平行に移動させます。この作業がスムーズに進むようアヤ竹の先にサキアヤを入れます。(写真89)

(8) 糸は強く張りすぎると伸びるので注意します。また、クシで力をかけて同じ箇所を何度もとがしたり、オサを力まかせに移動させると、糸が切れるので慎重に行います。巻く時は、糸がたるんだり、巻き方が斜めになったり、巻いた端の糸が崩れたりしないよう注意します。巻きが重なりすぎると上下の糸がからむので、時々ハタクサを入れて巻きます。(写真90・91)

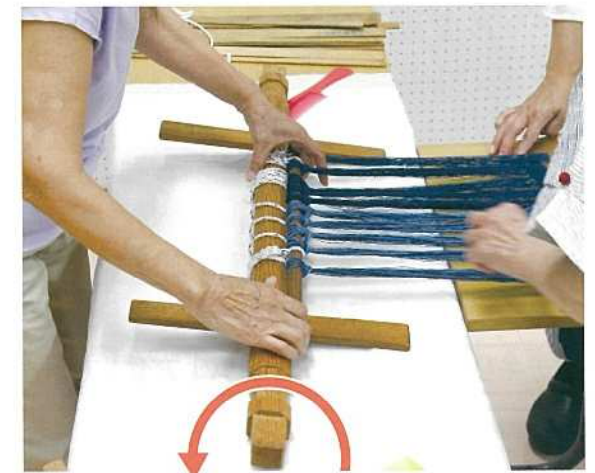


写真88 木の棒もタテ糸と一緒に巻いていく



写真89 2人でクシを使い、糸を整えながら移動していく。アヤ竹やオサを動かす時に引っかかりを感じたら強く動かさない



写真90
ハタクサを
入れながら
巻いていく



写真91 終わりに近づいたらアヤ返しを行う

【準備】

長机2台をT字に並べます。この作業は床で行うこともできます。その際は立ち膝で行います。

【工程】

(1) チキリ棒と木の棒を結ぶ二股の紐を、作業しやすいようにチキリ棒に巻き取ります。紐は矢印の方向に巻き、重ならないようにします。(写真86)

(2) タテ糸の鎖編みをほぐします。

(3) タテ糸の先の輪の部分の小束に分けます。分ける数が多いほど巻く時の糸の張りが均等になるため、できるだけ細かく分けます。「手織りの会」では織出布(p61参照)の輪の数に合わせて束を作っています。

(4) チキリ棒と木の棒を結ぶ紐の、木の棒側の左右いずれか片方の紐をはずします。

(5) 分けた小束を、図14のように、輪の部分を上にして、2つに分かれた輪の中に木の棒を通し、矢印の方向に糸を引き、棒にしっかりと糸を結びます。同様に全部の小束を順に棒に通して、図15のようにします。(4)でほどいた紐も結び直します。これで、タテ糸とチキリ棒とがつながったことになります。(写真87、図14・15)

【ハジキ機の飛杼装置の仕組み】

飛杼装置は、オサゲタの左右に取り付けられた2つの杼バシリとそれを紐で滑らかに動かす滑車、杼と杼バシリを収める左右の杼箱から成っています。(写真157)

杼バシリは、上部に小さな板、下部に革製の輪が付いていて、その輪に杼の尖った部分を収めます(写真158)。左右の杼バシリはそれぞれ紐とつながっています。その紐が機を中心部分で1本に結ばれ、その先は滑車の左側から右側へと通っています。(図32)

杼バシリ上部の板は杼箱の溝にはまり、滑車に取り付けた紐ともつながっているため、片手で紐を引くと、外側から内側へ杼バシリが引き寄せられ、それと同時に、革の輪に収まっている杼を押し出します。(写真159・160)

高速でタテ糸の開口部(杼道)を通してヨコ糸を通した杼は、反対側の杼バシリの輪で受け止められながら、移動した時の勢いで、杼バシリを外側へ押し戻します。紐を引く動作だけで、杼が自動的に左右往復する仕組みです。

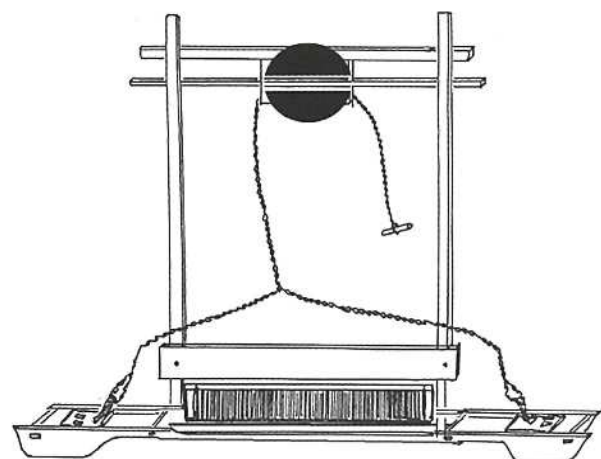


図32 左右の杼バシリと紐



写真157 オサゲタに取り付けられた飛杼装置

写真158
杼箱に収まった杼バシリ
杼バシリの上部は板、下部は革製の輪。杼箱上部の溝にはまった板が動いて杼を押し出す。杼は革製の輪の部分で受け止める



写真159
紐の先の小さな板を手で引くと、左右のヒバシリが内側に引き寄せられ、この寄せる力で杼を送り出す

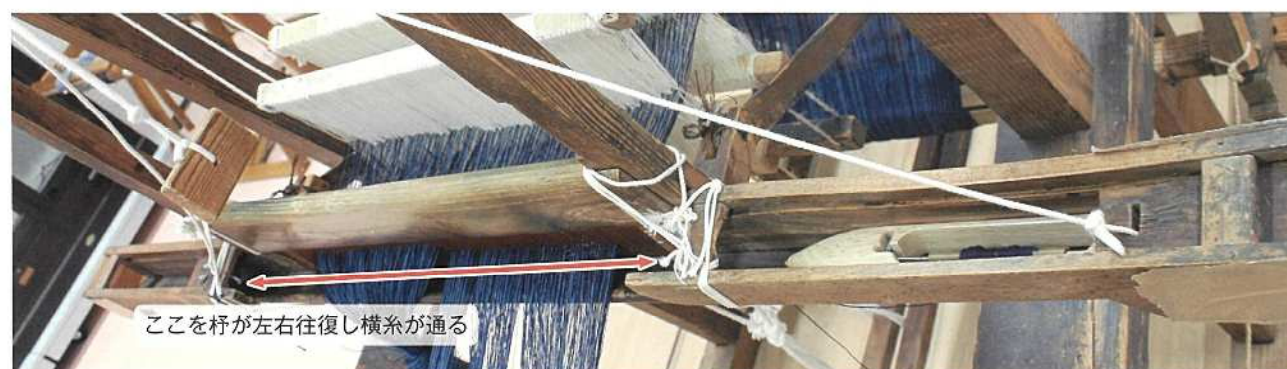


写真160 杼バシリに杼をセットしたところ(織り手から見て右側)

【使用する道具】

ハタ(機) 飛杼装置のついたハジキ機を使用。
ヒ(杼)
ヨコ糸を巻いたコクダ(小管)
ハタクサ(機草)

【工程1】～〈織り始め〉から〈織る〉まで～

(1) シメ棒を締めてタテ糸をしっかりと張る
(p63参照)

(2) ハタクサを織り込む

ヨコ糸を通す前に、ハタクサを2本程度織り込みます。

織出布の紐と結んだタテ糸は、糸の間隔にばらつきがあるので、その間隔を均一に揃え、オサで打ち込むヨコ糸を均一に織り込むようにするためです。

ハタクサを入れる時は、片足どちらかの踏木を踏みます。例えば、左足の踏木を踏み込みこんだら、踏んだまま杼道にハタクサを1本入れます。次に反対側の右足に踏みかえて、オサを両手で持って手前に引き、隙間を詰めるようにトントンと打ち込みます。そしてオサを奥へ押戻し、右足は踏んだまま、杼道にもう1本ハタクサを入れ、左足に踏みかえてオサを手前に引いて打ち込みます。(写真161・162)

(3) 小管を取り付けた杼を杼箱にセットする

杼を左右どちらかの杼箱にセットします。

例えば、(2)でハタクサを織り込んだ後に左の踏木を踏み込んでいたら、左側の杼箱に杼をセットします。

セットする時は、糸の出ている側面が手前(織り手側)に来るようにし、車の付いている面を下にします。(写真163・164)



写真161 織り始めにハタクサを入れる



写真162 もう1本ハタクサを入れて織り込む



写真163 ヨコ糸を巻いた小管を杼にセット

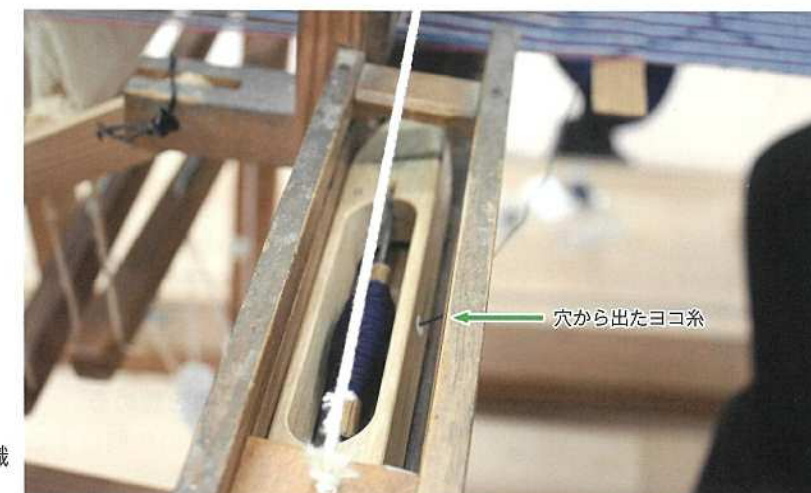


写真164
杼箱に杼をセットしたところ
杼の側面の穴から出たヨコ糸が、手前(織り手側)に来るようにセットする